

学会企画シンポジウム 2

〇〇しすぎる心理学？

企画・司会：高橋雄介（京都大学）

話題提供：野崎優樹（甲南大学）

話題提供：高野 明（東京大学）

話題提供：久保沙織（東北大学）

指定討論：楠見 孝（京都大学）

企画趣旨：

心理学は、何かと「〇〇しすぎ」てはいないだろうか。本シンポジウムの構成は、「測定しすぎ」・「解釈しすぎ」・「評価しすぎ」の3本立てである。心理学は目に見えないものを追いかけるがゆえに、測定してもその実体を完全にとらえたと言えることはまずない。客観的な測定を目指しすぎたがために、その構成概念の重要な側面を捨て置いてしまっているようなことはないだろうか。心理臨床の実践的な場面において、カウンセラーは、クライアントの内面を解釈しすぎるようなことはないだろうか。より単純な心的事象を深読みすることの功罪は本当はないだろうか。私たちが何かを定量的に評価することを目指しすぎたがゆえに、本来は手段であったはずの評価が目的化してしまったり意図しない独り歩きをしたりしてしまうようなことは起こってはいないだろうか。上記の例はいずれも、心理学においてよかれと思って実行されていることではあるが、それを「やりすぎてしまうこと」の功罪について自戒を込めて議論したい。